

中国と日本を結ぶ季刊誌

かけはし

季刊 2016年冬号
2017年1月1日発行(第1巻第3号)

**CRI紅白歌比べ40周年記念特別企画
「中日歌唱コンテスト」**

**CRI日本語放送
おかげさまで75周年!**

かけはし

季刊 2016年冬号
2017年1月1日発行(第1巻第3号)

目次

お便り募集のお知らせ

「かけはし」では読者の皆様の投稿を受け付けております。番組や冊子の感想のほか、中国旅行の思い出、エピソードなどをお便り・Eメールでお寄せください。

あて先

E-mail: riyubusns@126.com

郵便(中国): 100040 中国国際放送局日本語部「かけはし」編集部

- 02 中国国際放送局(CRI)日本語部
2016年のあゆみ
- 04 北京で初の国際ウィンタースポーツ博覧会 ……王小燕
3億人普及目標に向け創意工夫
- 06 世界無形文化遺産めぐり ……任春生
中国の切り紙
- 08 冬の養生 ……劉叡琳
冬の乾燥対策
- 09 日本で実践!中国語 ……張怡康・梅田謙
お土産を買う時の会話
- 10 漢詩歳時記 ……王洋・高橋恵子
「歳日」元稹
- 12 CRI紅白歌比べ40周年記念特別企画 ……張怡康・星和明
「中日歌唱コンテスト」
- 16 話 はなし 噺 HANASHI …李順然
野菜の王様・白菜
- 18 新語で知る中国事情 ……………謝東
キーワードチャイナ
- 20 イチオシ中国映画・中国音楽 …関亦水
映画編: 勇士之門など 音楽編: 永遠都在/S.H.Eなど
- 22 日本人スタッフのつづやき …高橋恵子
今日はあなたの誕生日~CRI日本語部~
- 24 ありがとう75周年
お祝いのメッセージ紹介
- 26 リスナーからのお便り
編集後記
- 27 広島大学北京研究センター主催
第11回日本語作文スピーチコンテスト
- 28 新年番組予告
~CRIからのハッピーニューイヤー2017~



14 15



表紙の写真
冬、朝焼けの故宮。一望できるのは景山公園の山頂。紫禁城の壮大さと宮殿建築の雅やかさを再確認できる、北京の中心地だ。(撮影: 劉叡)

「かけはし」編集委員会

発行人 王丹丹

編集人 趙雲莎

編集 梅田謙

潘 圓

王 帥

かけはし編集部

中国北京市石景山区石景山路甲16号

中国国際広播電台日本語部内

電話 +86 10 6889 1272

E-mail riyubu@cri.com.cn

URL japanese.cri.cn

新年のごあいさつ

■王丹丹 中国国際放送局東北アジア中央アジアセンター副主任兼日本語放送部部长

新年あけましておめでとうございます。平素より弊局の放送事業にご支援ご声援を賜り、誠にありがとうございます。お陰様をもちまして、弊局は放送開始から75周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のご愛顧の賜物と心から感謝を致しております。

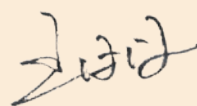
さて、御存知のとおり、中国の人々には2回のお正月が巡ってきます。昔は旧暦のお正月である春節のみを盛大に祝い、元旦は普通の休日でしたが、最近の家庭では両方を祝うことも少なくありません。もちろん、目出度さは依然として春節がダントツであり、ほかの休日が色あせるほどの数日間を過ごすこととなります。

最近では爆竹も政策の制限を受け、人々の仕事も複雑さを増し、昔ほどの賑わいはありませんが、一年に一回、まとまった休日のなかで家族団欒の時を過ごすことは、私たちにとってはかけがえのない絆の共有の時間であり、新年への充電の時でもあります。

もちろん、時代が進むにつれて、伝統的な色彩は薄れ、日々の忙しさに流され、家族の団欒自体が温かみを失っているのも事実です。時代に合わせた変化は何事にもつきものですが、日々の温度が失われるのは非常に残念なことです。その意味で、私自身、春節当日に当番を務めるスタッフには本当に頭の下がる思いです。

今号のかけはしでは、ちょうどお正月の時期にあたることから、年末年始の番組や日々お伝えしている番組をご紹介します。私たち日本語部のスタッフの休まない仕事の様子を紙面でお届けしています。記事の合間から、また、ネットやラジオから、私たちの新年にかける意気込みを感じ取って頂ければ幸いです。

今年も本誌が皆様と私たちを結ぶ懸け橋となりますように。




■王丹丹(おう・たんたん)

1997年入局。

2001年から2003年まで、日本駐在特派記者として東京勤務。帰国後、記者、キャスター、番組編集者などを担当。2005年、ラジオ番組「ポプラが語る物語——中国にある唯一の日本人集団墓苑」が「中国報道賞」金賞を受賞。2009年から2013年まで人事部に配属。2013年、日本語部部长に就任、現在、東北アジア中央アジアセンター副主任兼日本語部部长。

中国国際放送局(CRI)日本語部 2016年のあゆみ

1月

16日 ハイウェイ北京土曜の新コーナー「China Vision 2016」スタート

7日 ハイウェイ北京木曜(隔週)に新コンビ誕生 SNS用宣伝映像「30秒で番宣」も同時にスタート (担当:張怡康、星和明)



3月

18日～5月3日 ユーザー投稿型企画・第3回「さくら便り」実施。木寺駐中国日本大使をはじめ、中日各地から990通の投稿が集まる

5日 全国人民代表大会開会式、「ニコニコ動画」で初生中継 日本語音声をCRI日本語部より提供



29日 CRI前庭の桜が満開



23日 日本で活躍中のカリスマ中国語講師・段文凝さん、CRI前庭で桜の開花情報を伝える「CRIインタビュー」



4月

6日 ハイウェイ北京水曜の担当に劉叡アナが復活 新コーナー「Dr.劉のお悩み相談室」スタート

5日 新番組「日本で実践!中国語」スタート (担当:張怡康、梅田謙)



9日 第10回大中物産杯日本語弁論大会本戦 (CRI日本語放送が後援)

7日 日本の中国語新聞『東方新報』で「中華万象」を連載開始

25日 第1回中日韓公共外交フォーラム CRI日本語部史上初の写真と文字による生中継



16～18日 北京映画祭日本映画週間を特集で報道

25～30日 『『和して同ぜず』東北アジア書画展2016東京』を東京美術館で開催



5月

11日 東京在住リスナー・稲垣喬方さんが梅蘭芳記念館に資料寄贈、CRI訪問



7月

26日 映像番組「北京セルフィー日記」スタート



1日 『かけはし2016年夏号』発行 CRIとリスナーをつなぐ新聞『かけはし』が雑誌の形でリニューアル



8月

16～21日 『『和して同ぜず』東北アジア書画展2016モンゴル』を開催



10日 CRI制作のドキュメンタリー『回想の大地～70年の時を超えて』が公開



20日～9月3日 長野工業高等専門学校(長野県)の学生が実務訓練のためCRIを訪問

9月

4日 G20杭州サミットの開幕式をインターネットで生中継
ニコニコ動画と3回目のコラボ



6日～12日 長野短期大学の学生が語学研修のためCRIを訪問

24日 CRI日本語部編訳の日本語版『中国百科』が2016年東京国際ブックフェアに出展



2日 フェリス女学院大学の短期留学生11名がCRIを訪問、座談会を開く

6日～14日 『和して同ぜず』東北アジア書画展2016北京を北京民族文化宮で開催



14日 広島大学の短期留学生約20名がCRIを訪問、座談会を開く

10月

9～15日 リスナー歴64年の神宮寺敬さん(96歳、甲府市)、定例の北京訪問。11日に来局し馬博輝副総編集長と会見後、日本語部と交流



1日 『かけはし2016年秋号』発行



14日 CRIラジオ孔子学堂のオータムキャンプを開催
日本からは長野ラジオ孔子学堂の川村暢亨さんが参加



11月

15日 日本経済新聞、「中国の今 日本語で発信」と題する記事を配信。CRI日本語放送の取り組みを紹介



28日 「変化する中国 注目される農村」をテーマに、明治大学でビデオ通話による特別レクチャー
(講師:王小燕 受講生:農業経済コースの30人)

12日 第10回日本語作文スピーチコンテスト(主催:広島大学北京研究中心)でCRIが特別講演
本戦前日に出場選手向けの発声指導がCRIで行われる

20日 中国人民大学で日本語サロンを開催(協力:新潟市北京事務所)



12月

5日 日本青年記者団(読売新聞、朝日新聞、TBSなどの主流新聞社やテレビ局)約20人がCRIを訪問、胡邦勝局長や日本語部スタッフと座談会を開く



3日 CRIが開局75周年を迎える日本語部も75周年!
OB&OGを交えて座談会



19日 今年7月のインターン生・高橋豪さん(早稲田大学)がCRIに関する論文で日本日中関係学会主催・第5回宮本賞の優秀賞を受賞

17日 年末恒例番組「紅白歌比べ」40周年記念特別企画「中日歌唱コンテスト」を開催。2016年東アジア文化都市の寧波市と提携



2017年
1月

1日 『かけはし2016年冬号』発行

2017年もCRI日本語放送をよろしくお祈いします!

北京で初の国際ウィンタースポーツ博覧会 3億人普及目標に向け創意工夫

■王小燕



10月19日～22日、ウィンタースポーツとその関連産業の国際博覧会が、北京オリンピック公園にある国際会議センターで開かれました。2022年の北京冬季オリンピック誘致の成功を背景に開かれたこの博覧会では、世界各国との交流を重視する動きだけでなく、ウィンタースポーツ人口拡大に向けた中国独自の創意工夫も随所に見られました。

同博覧会の主催元は2009年に北京で発足した民間団体「北京オリンピック都市発展促進会」と米マサチューセッツ州に本社を置くIT、イベント運営、ベンチャーキャピタルの国際的・データ・グループ(IDG)社です。2社は今後2022年まで、同博覧会を年に一回開催するという事です。

メインフォーラムには「未来を切り開く」という全体テーマの下、日本やアメリカ、欧州など世界各国のゲストが出席しました。その他にもウィンタースポーツ用品や技

術、スキー場の運営、マーケティング、観光、人材育成、産業投資などを取り上げた分科会が同時に開かれ、100人余りのパネラーが出席し、ディスカッションが行われました。

このほか、2万2000平方メートルの広大な展示スペースには、スイスやオーストリアなど雪資源に恵まれた国の国別展示エリア、スキー場や観光地の展示エリア、「インターネット+」(インターネットと各種産業との融合を目指す中国の行動計画)を冠した、大画面でスキーの疑似体験ができるVR(バーチャル・リアリティ)のエリア、ウィンタースポーツ用品やスキーウェアの展示エリアなどがあります。さらに、500平方メートルのスケートリンクも設置され、来場者はリンクに入ってスケートやホッケーの体験ができます。日本からは長野県のスキー関連業界の合同ブースや、岩手県の安比高原スキー場がそれぞれ出展していました。



1.レスキュー関連機器の展示も(写真は四川省のメーカー)

2.世界各国のウィンタースポーツ用品メーカーが集まる

メインフォーラムを訪れたスキー場運営者は、「これだけ大規模な、ウィンタースポーツをテーマとする博覧会は初めてのことだ。情報交換ができることはもちろんだが、政府関係者が出席し、民間の私たちと対話するようになったことに重要な意義があると思う」と博覧会の開催を高く評価していました。

習近平国家主席は、2022年の北京冬季オリンピックの誘致において、その開催によって中国のウィンタースポーツ人口が3億人になるという見通しを掲げています。今回の博覧会では、スキーやスケート関連の展示だけでなく、「ウィンタースポーツ人口3億人」の目標実現に向け、中国各界の創意工夫の成果が展覧されていました。

その一つの例は「氷上のサッカー」とも呼ばれる「氷蹴球」です。これは北京の湖・什刹海で300年前の冬に行われていた競技を近年、民俗学者の趙書さんが復活させたものです。アイスリンクの上に石を置き、リンクに描かれた円をめがけて足で蹴り、獲得した点数で勝負をします。この「氷

の上のサッカー」は、復活を遂げてからは全国大会まで開催されるようになっており、今回の博覧会場でも、室内で試合ができるミニリンクが展示されていました。

もう一つの例は青少年向けのもの。氷以外の床の上でも練習ができる「両用カーリング・ストーン」です。開発したのは工作機械工場の元エンジニア・王金義さん。2タイプの設置面が用意されており、1つは普通の加工ですが、もう一方には3つの車輪が装着されていて、床の上でも練習ができるようになっています。ネジで取っ手部分を取り外すことで、必要に応じて装着面を変えることができます。一個あたりの値段は2000元～2500元(日本円では約3万～4万8000円)で、海外産のストーンの5分の1にまで抑えられています。

「身近なところにアイスリンクがない青少年やクラブチームにも、気軽にカーリングを楽しんでもらい、大衆スポーツとしてのカーリング人口の拡大につなげたい」と王さんは言います。

そして、「夢はわが社のストーンが

2022年の冬のオリンピック大会に採用されること。今は国内外の認証取得に向けて一生懸命に頑張っている最中だ」と意気込みを語っていました。



■王小燕
(おう・しょうえん)
1999年入局。

日本語部では火曜日の番組を担当。毎週ネットで更新している「CRIインタビュー」では、中日両国の交流に関わる各界の方たちにじっくりお話を伺います。

安徽省出身。北方工業大学日本語専攻卒、北京外国語大学日語学センター修了。

趣味は水泳、スキー、旅行。



1.長野県と岩手・安比高原のブース



2



3

3.天奥氷壺社のオリジナル新商品・両用カーリング・ストーン

2.冬季五輪会場となる北京市延慶区の展示エリア

■任春生

世界無形遺産めぐり 中国の切り紙



1959年から1966年にかけて、中国新疆のシルクロードのアスターナ古墳群から、5枚の切り紙が発掘されました。専門家の鑑定によって、図案は丸い馬、丸い猿、丸いスイカズラ、八角の模様、丸い菊の花の模様で、成熟した構図と技術が用いられており、南北朝の時代(420~589)のものだと分かりました。

民間の芸術として、2000年余りの歴史を持つ中国の切り紙。古代、旧正月の7日は「人日節」という祝日でした。南朝の時代には、この日に人の形に紙を切り抜き、屏風に貼ったり髪の上に飾ったりして新春を祝いました。これが切り紙の源流となり、それ以降、現在に至るまで、庶民の生活を反映しながら時代の変化とともに変容、発展し、2009年9月にはユネスコに世界無形文化遺産として指定されました。

古代の女性たちは金銀を薄くのばした板や、色つきの絹を花や鳥の形に切り抜き、飾り物としました。その後、紅の紙または色つきの紙を草花や動物、魚、虫、小説や伝説の中の人物などの形に切り抜き、おめでたい日にそれを窓や門に貼って装飾としました。これは「窓の花」と呼ばれ、特に、中国北部の農村では、木の格子の窓枠に白い紙を糊付けし、その上に赤や、ほかの色の「窓の花」を貼りました。こうすると室内には、おめでたい雰囲気が溢れ、いつしか各家で、旧正月になると窓に新しい白い紙で作った「窓の花」を貼るようになりました。

切り紙の文化には歴史的な奥行きだけでなく、地域的な広がりもあります。中国の各地に切り紙を作る風習があり、それぞれの地域に切り紙名人がいて、それぞ

れのスタイルや味わいを持っています。

たとえば陝西省の切り紙は、生活のなかでよく見聞きされ、熟知されている事柄が題材になり、親しみやすいものです。

ところが、江蘇省揚州市に行くと、切り方が精巧で、線が長く伸びやかなことが特色の、古風で飾り気のない雅な印象の切り紙に出会えます。

また、切り紙にはハサミで切る方法と、小刀で切り抜く方法がありますが、刀で切る手法の代表が河北省蔚県です。大抵は色で染められた生地を使い、作品は装飾品としてよく窓に貼り付けられます。

この他、山西省浮山県では、龍の図案の切り紙を作り、金銀の紙で切り抜いた龍の

上に色のついた紙をはり、龍の体を立体的に表現します。この龍は、迫力があり生き生きとして今にも動き出しそうです。

広東省仏山市の切り紙は、切る、切り開く、切り抜く、ノミで打つ、判を押す、書く、裏打ちする、などの技法で作られます。こうして完成した作品は色彩が鮮やかで、農村のイメージがよく伝わってきます。

紹介してきたように切り紙という民間芸術は、陝西省、山西省、河北省、江蘇省、広東省の他に山東省、浙江省、重慶市、湖北省、福建省など14の省と市にあります。これらの地域に足を運ぶことがあれば、切り紙を集めながらそれぞれの旅やグルメを楽しんでみては、いかがでしょうか。



■任春生
(にん・しゅんせい)

2003年入局。

中国の世界遺産巡り、中国の世界無形文化遺産巡りなどのシリーズ番組を担当、中国の歴史と文化を紹介。現在は番組「中国の旅・デラックス」を担当。

江蘇省塩城市出身。南京農業大学日本語科卒、北京外国語大学日本学研究中心修了。



陝西省の切り紙



河北省蔚県の切り紙

■劉叡琳

冬の乾燥対策



冬になると、寒さによって皮膚が乾燥してかさつきますよね。病気ではありませんが、実に煩わしいものです。今回は冬の乾燥対策を幾つか取り上げてご紹介します。

▼梨ジュース

乾燥しやすい冬のシーズン。肌にかゆみを覚えたり、口や鼻が乾燥したり、さらに喉が渇いて唾液の分泌が減ってしまう人も多くなるでしょう。そんな時は、梨ジュースを1日に1、2杯飲むと良いのです。梨ジュースは水分量が80%以上あるので、水分補給を忘れがちな高齢者や子供にとっては特にオススメです。また、甘酸っぱい梨ジュースには肺を潤し、咳を止め、血を浄化する作用があるほか、喉のかすれと痛み、痰のからみなどにも効きますし、美肌効果もあるんですよ。

▼足のマッサージ

漢方の養生理論では、足を健康な状態に保つことが冬の乾燥防止や身体の健康維持につながる秘訣の一つとされています。毎日、足湯をしてマッサージをしたり、

ツボを刺激したりすると良いですね。また、毎日30分以上歩いて両足を動かすと、血液の循環が良くなり、手足の乾燥防止に効果があります。

▼十分な睡眠

冬には、早寝早起きをして十分な睡眠を確保することによって、身体中の「陽気」を養い、体内の水分を守ることができます。そうすると、精神的な落ち着きと安定感を保つことができ、身体のバランスが取れて、内臓や各器官が潤され、皮膚の水分も失いにくくなりますので、乾燥防止につながるとされています。

▼気分の管理

物事がすべて自分の思い通りになればいいと、誰もが望むことでしょう。しかし、現実には、楽あれば苦あり、病気、失望、挫折、生活と仕事のストレス……いつの間にか、ネガティブな気持ちが生まれます。特に、秋冬になると感傷的になりがちなので、気持ちが落ち込みやすいのです。このようなネガティブ気分を取り除くため

には、意識的に微笑むこと、いつもと違う服の色やヘアスタイルを試すこと、自分にお休みをあげること、適度な運動すること、独りで悶々とせずに友人と歓談すること、大声で歌を歌うことなどを薦めます。ただし、歌の選曲には、悲しいバラードや苦い失恋ソングを出来るだけ避けてくださいね。いっそう悲しくなってしまうかもしれません。



■劉叡琳

(りゅう・えいりん)

2002年入局。ニュースキャスターのほか、毎週月曜日の番組を担当。

「ライフマガジン」やネット更新中の「いきいき中国」で、最新のライフスタイルから、昔ながらの懐かしい暮らしまで、「生」の中国をお届けしています。

雲南省出身。北京第二外国語大学大学院日本語専攻修了。

日本で実践!中国語

かけはし出張版 お土産を買う時の会話

この講座番組では、日本で中国人と出会ったとき、どんな風に中国語で会話すれば良いかを一緒に勉強しています。

新年には、多くの中国人観光客が日本を訪れることが予想されますね。お土産を買いに来た中国人とのコミュニケーションに役立つ中国語を、一緒に見てみましょう。

「日本で実践!中国語」の第11課で勉強した内容を抜粋してお届けします。

張 怡康



「お土産は北海道のチョコが一番!」

梅田 謙



「中国土産は乾燥ナツメがイチオシ!」

会話

Qùkè Zhèlì de tèchǎn shì shénme?

顧客: 这里的特产是什么?

Diànyuán Zhèzhǒng dàngāo shì zhèlì de tèchǎn.

店員: 这种蛋糕是这里的特产。

Yǒu sān zhǒng kǒuwèi.

有三种口味。

Qùkè Nà gè yào liǎng hé.

顧客: 那各要两盒。

Diànyuán Hǎo de, yìgòng liù hé,

店員: 好的, 一共六盒,

Qǐng zài bàn ge yuè nèi shíyòng.

请在半个月內食用。

訳文

客:この名物は何ですか。

店員:このケーキが、この名物です。全部で3種類あります。

客:では、2箱ずつ下さい。

店員:分かりました。合わせて6箱、半月以内にお召上がりくださいね。

構文: 是

- ★是..... (～は～です。)
- ★ 疑問文是什么? (～は何ですか?)
- ★是.....吗? (～は～ですか?)

単語

<i>zhèlì</i>	这里	ここ
<i>dàngāo</i>	蛋糕	ケーキ
<i>shénme</i>	什么	何
<i>kǒuwèi</i>	口味	味
<i>gè</i>	各	それぞれ
<i>hé</i>	盒	箱(量詞)
<i>zhèzhǒng</i>	这种	この種類
<i>yìgòng</i>	一共	合わせて
<i>tèchǎn</i>	特产	特産品・名物
<i>qǐng</i>	请	どうぞ～して下さい
<i>shì</i>	是	～だ
<i>nèi</i>	内	以内、～の内

「日本で実践!中国語」は以下の方法でお聴きいただけます。

- ☆ **Podcast** iTunesや対応アプリで「中国語」「日本で実践」を検索。
- ☆ **CRIラジオ** 毎週火曜日と金曜日に好評放送中!
- ☆ **Webサイト** CRI公式サイト「中国語教室」コーナーへお進みください。
URLはこちら→<http://japanese.cri.cn/15home/hanyu.htm>



漢詩歳時記

■王洋・高橋恵子



□作品原文と解釈

Suì rì Yuán Zhǎn
《岁日》 元稹

歳日 元稹

Yí rì jīn nián shǐ
一 日 今 年 始
Yì nián qián shì kōng
一 年 前 事 空
Qī liáng bǎi nián shì
凄 凉 百 年 事
Yīng yǔ yì nián tóng
应 与 一 年 同

ついたち ことし はじ
一 日 今 年 始まる
いちねん ぜんじ むな
一 年 前 事 は空し
せいりょう ひやくねん こと
凄凉たり 百年の事
まさ いちねん おな
応に 一年と同じなるべし

元日の今日から今年と言う新しい年が始まる。振り返ってみれば去年一年は空しいものになる。人の一生は侘びしいもの。一年と同じように過ぎ去るに違いない。



音声は <http://japanese.cri.cn/2066/2016/02/17/181s246317.htm> へ



□作者紹介

元稹(げん・しん)は中唐の詩人。牡丹の花が有名な洛陽の人。幼い頃に父を亡くし母親が女手1つで育てたとされています。中国を代表する詩人・白居易と同じ試験を受け、8歳ほど年下ですが、二人は親友になり「元白」とも称されました。解りやすい恋愛の詩なども多く、民間人に愛された詩人です。

タイトルの「歳日」は、元日のことです。もちろん旧暦の1月1日です。この日から今年が始まります。「前事は空し」の「前事」は、以前の出来事の意味ですから、去年のことです。確かに、歳が改まるとなんだか昨日までのことに興味がわかなくなり、バタバタしていた年末の出来事がもう、どうでもいいように感じますね。「淒涼たり 百年の事」の淒涼は、もの寂しい意味で、百年とは人間の一生のことを言っています。実際の寿命からするとちょっと長いのですが、そこは「白髪三千丈」の漢詩の世界ですから。最後の「応に」は、「きっと～にちがいない」。ここでは、人生の百年と今年1年とを同じようにとらえているようです。つまり、百年＝人の一生が1年と同じ＝あつという間に過ぎてしまうと言っています。新年、お正月の詩ですがお目出度いウキウキした雰囲気よりも、悟りの境地を感じます。確かに、お年玉をもらえたり親戚に会ったり無邪気にお正月を喜べるのは子どものうちだけなのかもしれません。

■高橋恵子(たかはし・けいこ)



学生時代からアナウンサーの仕事をして早35年。日本語部で働くのは93年～95年に続いて2回目です。この番組「漢詩歳時記」は2013年から始まり気が付けばもう3年です。歳時記のタイトルにふさわしい漢詩をみつけると「やったあ!」嬉しくなります。高校時代ちんぷんかんぷんだった漢詩も今読むと「そうだよね」と共感したり、情景が目浮かんだり。歳とるって、いいですね。

■王洋(おう・よう)



2005年入局。2010年2月から2014年7月まで東京支局勤務、現在はニュースキャスターのほか、毎週水曜日の「中日交流カフェ」番組を担当。電波で結ばれた人と人との絆、新たに広がりつつある友情の輪、「草の根」の交流の第一線で活躍している人々の声に耳を傾けます。北京市出身。北京第二外国語大学日本語学部卒。

CRI紅白歌比べ40周年記念特別企画「中日歌唱コンテスト」

両国の選手が相手国の言語で歌唱力を競う「中日歌唱コンテスト」の公開収録が2016年12月17日、中国国際放送局(CRI)内で行われました。

本選に出場した個人・グループ計10組の中には、地元北京から参加した両国の学生や社会人のほか、大連から駆け付けた大学生や、東京から駆け付けた元北京駐在員などの姿も。

審査員は作詞作曲家の呂遠さん、作曲家の徐沛東さん、歌手の紀丹迪(アメリカ・ジー)さんなど、豪華な顔ぶれ。対決は5ラウンドに分けて実施され、各ラウンドは「ヤング・パワー」、「歌唱力」、「演歌とクラシック」、「懐メロ」、「感謝の気持ちを込めて」を

それぞれテーマに繰り広げられました。

結果、「ベストパフォーマンス賞」を受賞したのは、テレサ・テンの名曲「月亮代表我的心(月よ我が心)」を、日中友好を願う心とかけて演奏した日本人グループ、紅組「北松岡川レジェンドBAND」。

「最優秀歌唱賞」に選ばれたのは、心にしみる「千の風になって」を美しいハーモニーで歌い上げた中国人男女ユニット、紅組「南城之声」。

総合優勝である「グループ賞」には紅組が選ばれました。

「CRI紅白歌比べ」はCRI日本語放送のリスナー参加型番組として、1978年1月1日に初放送され、2017年元旦で40回目

を数えます。中日友好交流の場を目指し、今回は広く一般から出演者を募集しました。

本誌『かけはし』では、今回の司会を務めた張怡康アナと星和明アナからの寄稿をお届けします。当日の様子をお伝えする写真と共に楽しみみてください。

ステージの模様をまとめた日本語ラジオ番組は2017年新年特別番組として1月1日の日本時間19時からCRI日本語ラジオで放送後、映像番組と共にCRI日本語サイトで公開されます。新年の団欒のお供に、ご視聴・ご聴取をお待ちしております！



北京外国語大学中国語学科
鎌田真理恵さん



北京大学日本語通訳専攻
黄少安さん



北京大学日本語通訳専攻
劉政さん



コンサルタント会社職員
平林孝之さん



黒子とともにステージに立つ北松岡川レジェンドBAND

「接戦の末に、念願の優勝！」

■紅組キャプテン 張怡康

今年も去年に引き続き紅組キャプテンを務め、星アナ率いる白組と再び「全力」で戦いました。その結果は…**紅組優勝**です!!!!

審査員の一人、「北国の春」の中国語歌詞で有名な呂遠さんが優勝チームを発表した瞬間は、思わずピョンピョンと飛び跳ねてしまいました。それというのも、忘れもしない去年、それまで負け知らずだった紅組が、中国に来て間もない星アナ率いる白組に負けてしまい、本当に悔しかったからです。

40周年という節目の年、今年こそ紅組を勝利に導くぞ!と意気込んで迎えた本番当日、会場は選手たちの応援団、中日文化に興味を持つ両国のゲスト、日本語部OB・OGの先輩方などで一杯。

紅組は気合の入った「1!2!3!加油!(ファイト!)」、白組は勢いのある「エイ!エイ!オー!」の声をそれぞれ上げ、コンテストがスタートしました。

選手たちの真剣な歌を聞いた素直な感想は、

「うっ、うまい…!」

甲乙つけがたい両組のステージに、勝ち負けのことなど忘れて、どちらも応援したくなってしまう自分がそこにいました。

紅組選手は、中国語が上手すぎる学生・鎌田真理恵さん、高い学力と顔面偏差値を併せ持つ・劉政さん、高校時代の友人同士が結成したクラシックユニット・南城之声、中日友好を願う永遠の25歳・北松岡川レジェンドBAND、はるばる大連から駆けつけた日本語学習者・楊悦さんの5組。

結果的にはこのメンバーで、みごと最優秀歌唱賞、ベストパフォーマンス賞、そして紅組としてのグループ賞を勝ち取りました!

けれど、こんなにも嬉しいのは、白組の歌も本当に素晴らしかったからこそ。中でも、東京から参加した北村史郎さんが



歌った「彩虹」は、ステージに慣れない様子があっても、中国語の歌詞と真摯に向き合い、発音を練習してきたことが伝わってきて、胸を打たれました。

審査員の方々が最終審査にかなり悩んだという、今回の紅白歌比べ。そのパフォーマンスを、ぜひCRIのホームページでご覧ください!

「右や左が見えてくる」

■白組キャプテン 星和明



年末年始恒例「紅白歌比べ」の白組キャプテンを今年も務めました。去年は中国に来てわずか1週間で担当し、局と自宅の往復の道しか知らず、まさに文字通り右も左も分からない状況でした。だからこそ、初め

て見た「中国人は日本語の歌、日本人は中国語の歌を歌う」という様子の一つ一つが新鮮に映りました。そして、今回は1年間の中国滞在を経て迎えた紅白歌比べとなりましたが、この驚きが変わることはありませんでした。

今年の白組は前回に負けず劣らずで、予選を勝ち抜いた実力十分な選手が揃いました。印象的だったのは、長く歌い継がれている選曲。楊朔一さんは、ちあきなおみの「さだめ川」を熱唱しました。恐らく楊さんと同世代の日本人でも、歌える人は少ないのではないのでしょうか?それを情感たっぷりに自分の歌であるかのように披露してくれました。

そして、私が個人的に反応せざるを得ない曲「サライ」を歌ったのは孫英さんです。言わずと知れた名曲ですが、以前、私が勤務していた青森放送は日本テレビ系列だったため、毎年「24時間テレビ」を放送していました。「サライ」の大合唱はエン

ディングの恒例で、私の中ではフィナーレの曲という認識があります。そのため、対戦途中にも関わらず、もう最後の曲のような気になってしまいました(笑) また、孫さんのこれまでの人生経験が滲み出てくるような歌声も本家に通じる素晴らしいものがありました。

実力派揃いの白組で善戦しましたが、今回は残念ながら紅組に勝ちを譲ることになりました。結果は惜しかったものの、歌比べを通して舞台上だけに留まらない中日交流が活発に行われた1日となったように思えます。

去年の右も左も分からない状態から、2回目の司会では多少なりとも右や左が見えるようになったような気がします。これからも中国のなかの「中国と日本」に接して、イベント、番組、中国国際放送局から発信できることを通して、等身大の情報をお伝えしていきたいと思います。



大連海事大学日本語専攻・楊悦さん



クラシックユニット・南城之声



東京から参加の国際会計事務所職員
北村史郎さん



国際関係学院・大学院日本語翻訳専攻
楊朔一さん



フォアグラ販売業・孫英さん



審査員の顔ぶれ(一列目正面右からCRI人気DJ・国鵬さん、アメリカ・ジーさん、呂遠さん、徐沛東さん、第37回紅白歌比べ優勝者・ソニアさん)



出演者全員での記念写真



日本語で「CARRY THE LIGHT」を熱唱する歌手
アメリア・ジーさん



「ジャスミンの香り」を演奏する吳妍萱さん



「中国で一番カッコいいソーラン節！」のキャッチ
フレーズを持つ日本伝統芸術パフォーマンスグル
ープ「華(はな)組」の熱演



東京から駆けつけた工学院大学孔子
学院主催第5回日中友好カラオケ大会
優勝者・丸川裕子さん

話 はなし HANASHI 噺

■文 李順然 ■絵 張紅

野菜の王様・白菜

白菜の漬けもの

紀元前一〇四六年、つまり三千年も昔に建国した中国の周王朝の時代の人々が白菜の漬けものを食べていたということを知って驚きました。中国最後の封建王朝である清王朝(1636-1912年)の進士(官吏試験合格者・秀才)尚秉和が書いた『中国社会風俗史』に、そう記されているのです。周王朝の時代には、白菜のほか、せり、にら、たけのこなど七種類の野菜の漬けものがあつたそうです。

下って三千年、やはり清王朝の進士・敦崇が清代の北京を書いた『燕京歳時記』(「燕京」は北京を表す雅称)にも白菜の漬けものがでできます。十二月のページには「大白菜」という項目があり、「大白菜とは塩漬けの白菜である。……白菜の良し悪しでその家の盛衰を占うことができる」と書いてありました。白菜を選ぶ主婦の責任は重大だったのです。

子供が小さかった頃、私の家でいろいろ手伝ってくれた北京っ子の王ばあやの白菜の浅漬は絶品でした。お粥に油条(小麦粉を長く伸ばして油で揚げた軽食)、それに添える王ばあやの白菜の浅漬、シャキシャキという歯ざわり、噛んでいるとほんのりに舌に感じる甘味……。半世紀も昔の

ばあやの味、今も忘れられません。

ちなみに、張紅さんのさし絵の「白菜の買い出し風景、五十キロ、六十キロとまとめて買う風景は、市民の生活レベルの向上に加え、生産、流通、消費システムの変化などにともない、かなり減っています。と

いっても、安いうちに買っておこうというおばさん連中、その量こそ減っていますが、「白菜の買い出し」風景はまだ北京の冬の風物詩に姿を留めています。

白菜の買い出し



文人墨客と白菜

今回のタイトル「野菜の王様・白菜」、決して私の主観・独断によって生まれたものではありません。画壇・文壇の巨匠たちのことばの引用なのです。

まず、現代中国画壇の泰斗・齊白石(1864-1957年)は、好んで身のまわりのものをその題材にしており、白菜も描いています。それに添えた題字で「牡丹は花の王様、ライチは果物の王様、白菜は野菜の王様」と記しているのです。

文壇を見てみましょう。「唐宋八大家」に数えられる北宋の蘇軾つまり蘇東坡

(1036-1101年)は、「松(しゅう)の味は子豚の肉の如し、熊の掌(たなごころ)の如し」と白菜の味を褒めています。松とは白菜のこと、松のように四季を通じて緑を保っているのがこう呼ばれていました。熊の掌の煮込みは中国料理の珍品中の珍品です。

北宋の蘇軾と並び称された南宋第一の詩人・陸遊(1125-1210)も白菜絶賛派でした。旨さだけでなく料理法まで論じています。その詩で「松は菹と為すべし」と書いています。菹(しよ)とは漬けものこと。「白菜は漬けものがよい」と言っているのです。

ちょっと感激しました。わが同胞、三千年も昔から現在に至るまで、白菜の漬けものを旨い、旨いと食べて来ているのです。白菜はまさに野菜の王様だと思いました。

シャキ・コリサラダ

野菜の王様・白菜がわが家の食卓によく姿を見せるのは冬です。ちょっとオリジナルなのはシャキ・コリサラダ。主な材料は白菜と干しクラゲです。

白菜は白いところ五に対して緑は一の割合で、食べやすい大きさに切ります。干しクラゲは一晩水に漬けて皮をすり落し、さっと茹でます。そこに色を添える赤いクコの実と白キクラゲ、これも三十分ほど水に漬けてさっと茹でます。医食同源、いずれ



も漢方の食材で、クコの実は肝臓、腎臓によく、白キクラゲは肺、気管支によく、また肌を美しくする効果があるそうです。さらに二、三センチほどの小さな干しエビ、これも一時間ほど水に漬けたあと、さっと茹でます。もちろん、白菜は生のまま。その他は茹でたあと、水を切って冷やします。

肝心なのはお酢です。以前は中国のお酢の名産地山西省産の老陳酢、高粱、大麦、ふすまなどを原料とした「水塔老陳酢」などを使っていましたが、その後、北京で造られている米を原料とした米酢、「龍門米酢」を見付けて、これに変えました。あっさりして甘味があり、この方が美味しいようです。塩とか砂糖とか、旨み調味料などは使いません。

前述の素材はちょっと大きめのボウルに入れ、お酢を加えながらかきまぜれば出来上がり、白菜のシャキシャキ、クラゲのコリコリ、そこでシャキ・コリサラダと銘打って悦に入っています。白、赤、緑…とちょっとカラフル、スチーム暖房の効いた部屋で一献傾けながらシャキシャキコリコリ、これまた絶品です。

三根湯

三根湯——張紅さんの絵を見ていただければ一目瞭然、そうです。白菜、ねぎ、香菜（中国パセリ、パクチーともいう）の根をきれいに洗って煎じたものです。

湯といっても魚翅湯（フカヒレスープ）の

ような料理ではありません。正真正銘の薬なのです。冬の家庭の台所に欠かせないこの三種類の野菜の根（捨てる部分）をごしごしと洗い、とんとんと切り、ぐつぐつと煎じた節約型の風邪ぐすり、初期の風邪によく効くようです。



わが家では冒頭で登場した北京っ子の王ばあやが、わたしの子供が鼻水を流したりしていると、すぐに台所に入り、「三根湯」を造り、黒砂糖をちょっと入れて飲ませていました。正体不明の横文字の薬が苦手なわたしたち夫婦も、ちょっと寒気がしたりすると、台所に入って「製薬」して飲んでいきます。そして、王ばあやが教えてくれた「三根湯」、そこに込められた北京庶民が代代伝えてきた知恵、文化を感じるものです。

シャキシャキと白菜浅づけ冬の朝
三千年白菜漬けきしわが国民(くにたみ)



■李順然(り・じゅんぜん)

中国国際放送局日本語部に50年勤続したOB。趣味は本、雑誌、新聞などの「雑覧」。



■張紅(ちょう・こう)

中国大手出版社三聯書店のベテランアートディレクター。趣味は水泳、登山。

lán shòu xiāng gū
蓝瘦 香菇

「蓝瘦」の「蓝」は青色、「瘦」は痩せるだが、あまり意味がない。「香菇」はシイタケ。訳がわからない言葉に見えるが、実は「难受(nánshòu)想哭(xiǎngkū)」が訛った発音。「难受」はつらい、苦しい。「想哭」は泣きたい。「难受想哭」でつらくて泣きたいという意味。あるネットで流された映像によって広まった言葉。その映像は広西チワン族自治区南寧市に住む若い男性が失恋した自分の様子を記録し、「难受，想哭(つらくて泣きたい)」と言ったもの。しかし、その発音が訛っていたので、「蓝瘦香菇」に聞こえてしまった。それを面白がって、ネット上であつという間に広まった。

しかし、実際は「蓝瘦香菇」と言った男性は失恋したのではなく、奥さんが一人で旅行に行っただけ。ネット有名人になるための仕掛け、やらせではないかという疑惑も浮上している。



蓝瘦香菇

wǎng lù zhí bō
网络直播

「网络」はインターネット、「直播」は生放送、ここではライブ配信。「网络直播」でインターネットを使ったライブ配信の意味。ネット通信技術の向上や、スマートホンの普及、およびデータ通信料の値下がりなどを受け、中国では、インターネットで動画番組やライブ配信を楽しむ人が多くなっている。特に、配信される番組に視聴者がリアルタイムでコメントできる機能など、利用者の参加意識を高める工夫が充実してきていることから、インターネットによるライブ配信が、若者の間で人気を集めている。

生で配信される内容は、大きく分けて2種類ある。1つは「動画サイトが制作するもの」で、もう1つは「利用者個人が生で配信するもの」。ネット配信の技術や、動画サイトの運営などは、テレビ番組に似ている。スマートホンやモバイル

そして通信環境さえあれば、インターネット配信サービスが提供する動画サイトに登録すれば誰でも、いつでもどこでもライブ配信できるので、特に若者の利用者が多くなっている。

「ネットゲームの対戦」の様子、トークショー、芸や腕前の披露、趣味、有名人のインタビューなどが人気。また、中国でのカルチャーショックなどを紹介する外国人もいる。



■謝東
(しゃ・とう)

1992年入局。中国語講座関連の番組「キーワードチャイナ」や「文法ノート」などを担当。言葉は生きものという考えのもと、教えるというよりも、リスナーの皆さんと一緒に勉強していく気持ちで日々努力している。

北京市出身。1992年北京師範大学日本語学部卒業。2004年～2005年慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所客員研究員。

イチオシ! 中国映画 中国音楽



王牌逗王牌 (Mission Milano)

公開日:2016年10月1日

監督:王晶(バリー・ウォン)

主演:劉徳華(アンディ・ラウ)

黄晓明(ホアン・シャオミン)

王祖藍

欧陽娜娜(Nana)

香港を代表する俳優、劉徳華(アンディ・ラウ)と大陸を代表する黄晓明(ホアン・シャオミン)がW主演するコメディアクション。香港の名監督、王晶(バリー・ウォン)がメガホンを取った本作は、探偵と義賊が手を組んで、世界を救うべく国際的な犯罪テロ組織に戦いを挑むストーリーになっています。2大俳優の初共演が見所であるほか、チェリストでありながら女優活動を続ける天才若手、欧陽娜娜(Nana)の出演にも注目です。



勇士之門 (The Warriors Gate)

公開日:2016年11月18日

監督:マティアス・ハーネー

主演:趙又廷(マーク・チャオ)

倪妮(ニー・ニー)

ユリア・シェルトン

呉鎮宇(フランシス・ン)

中仏合作のファンタジーアクション『勇士之門(The Warriors Gate)』。ひょんなことから不思議なゲートをくぐってしまった青年が、異世界で部族間の戦いに巻き込まれていく冒険映画です。主演には、台湾出身の人気俳優、趙又廷(マーク・チャオ)、大陸出身の人気女優、倪妮(ニー・ニー)、そしてアメリカ出身の若手、ユリア・シェルトンを迎えています。また、プロデューサーや監督として名高いリュック・ベッソンが脚本と制作を担当したことで、注目を集めました。



■ 閔亦冰(みん・い ひょう)

音楽や映画、生活などさまざまなジャンルの番組を手がけ、10年以上ラジオのパーソナリティとして活躍。2015年から日本語部映像担当プロデューサー。カメラを通して中国の最新情報と魅力を発信しています。

北京出身。北京外国語大学日本語学科卒。



LION

獅子合唱団(ライオン)
発売日: 2016年9月16日

蕭敬騰(ジャム・シャオ)のバンド企画が遂に始動。これまで様々なジャンルに挑戦してきた彼が、音楽仲間の力Q、鄒強、阿矩と手を組んで、バンド「獅子合唱団(ライオン)」として再出発。これまでのアーティスト・ジャムとは違う、ロックンロールの真骨頂とも言えるサウンドが印象的で、「ルーキーとして受け止めてほしい」というジャムの意気込みを感じる渾身の一枚に仕上がっています。バンド名を冠したメインソング「LION」や究極のロックバラード「最後の請求(最後の願い)」を含む全10曲を収録。



永遠都在 (Irreplaceable)

S.H.E
発売日: 2016年8月26日

結成15周年を迎えた中華圏のトップグループS.H.Eが最新EPをリリース。15周年アニバーサリー記念展「團圓One in One」の開催に合わせてリリースされたタイトル曲「永遠都在(Irreplaceable)」は施人誠とROSAN, ROBERTOの共同制作による楽曲で、S.H.Eの過去の曲名を歌詞に生かした工夫もあり、まるでS.H.Eの15年が形になったかのようなアニバーサリーイヤーにピッタリの一曲。ほかに、メンバー3人のソロ曲も収録され、ファンへの感謝の気持ちが込められた記念すべき1枚となっています。



JTW西遊記

方大同(カール・フォン)
発売日: 2016年9月28日

香港の鬼才、方大同(カール・フォン)が2014年の『危険世界(デンジャラス・ワールド)』以来2年ぶりとなるフルアルバムを届けてくれました。中国と西洋の融合をテーマにしたこの新作は、日本人にも親しみある「西遊記」をタイトルにしており、クラシックな雰囲気が漂う「ゴールドディスク」とモダンな要素が味わえる「ブラックディスク」からなる2枚セットとなっています。王力宏(ワン・リーホン)、Zion.T & Crush、杭蓋(ハンガイ)、王詩安(ダイアナ・ワン)、FifiRong、張靚穎(ジェーン・チャン)など豪華なゲスト陣にも注目です。

日本人スタッフの つぶやき 在中日本人の生活日記

■高橋恵子

今日はあなたの誕生日 ～CRI日本語部～

12月2日、いつものように局舎に入るとこんな文字が出迎えてくれた。



祝! 中国人民対外放送事業並びに中国国際放送局開局75周年。

12月3日が私達、CRI(中国国際放送局)の誕生日。

今年は土曜日に当たったので前日の2日にいくつかの行事があった。

中国の対外放送＝外国語放送の第一声は日本語だったことから、CRIの歴史は、日本語部の歴史でもある。つまり、12月3日は日本語部の75歳のお誕生日。

私が今回日本語部に着任したのが2011年＝開局70周年の年だった。この時は、局が主催制作した軌跡を振り返る朗読劇に放送の第一声を担当した原清志さんの役で出演した。



日本語部のパーティーでは、司会もやらせてもらった。

この2つの大役を通して、日本語部における日本人アナウンサーのルーツを訪ねてみたくなって翌年の早春には、日本語放送第一声が発せられた延安のスタジオにも行ってみた。



このヤオトン(洞窟)スタジオでは、先輩の鄭湘アナと一緒に「こちらは北京放送…」とコールサインを言ってみた。



大きな歴史の一部に自分がいるようで、日本語部に対する愛着と責任感が強まったような気がする。

それから5年の月日が流れた。最近、中国では派手にやらないのが流行なので、日本語部でもささやかにいつも部会の行われる会議室で誕生会を開催した。

頼副部長の司会進行で、部員自ら総出演の「HAPPY BIRTHDAY」の映像を観たり、OB・OGからお祝いのことばをもらったり、和やかに進む。机を見れば、本当にお茶とお菓子でささやかな茶話会。でも、誕生会だからこれは欠かせない。



日本語部は中国人も日本人も働いている。私は「日本人」「中国人」と区別せず、「日本語部の一員」として仕事をしているけど、実際は言葉や習慣の壁から中国人スタッフに私的な場面でいろいろ助けてもらっている。感謝の気持ちを込めて日本人スタッフ一同からケーキをプレゼント。



この誕生会の様子は、映像番組になる。その制作セッションからは花束のプレゼントをいただいた。



OB-OGも参加

一人一人の笑顔が、何よりの誕生日プレゼント!

お誕生日、おめでとう。

私の野望は、日本語部100歳の誕生日も日本語部のみんなと笑顔でお祝いすること。その日をめざして、今日もはりきって行きましょう!



最後に1階のホールで記念撮影



■ 高橋恵子(たかはし・けいこ)

93年～95年に続き、2011年から日本語部勤務。高級専門家。担当番組は、「ハイウェイ北京」水、金曜日、「キーワードチャイナ」「快乐学唱中文歌」など。また、アナウンス、映像番組指導なども担当。

趣味はマラソン。文字通り中国中を走り回っている。

ありがとう75周年!お祝いのメッセージ

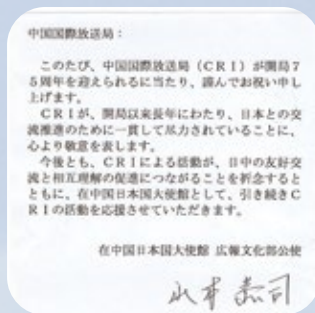
2016年12月3日、中国国際放送局が75周年を迎えました。中国の外国語放送の第一声は日本語でしたので、これはCRI日本語部の75周年でもあります。

在中国日本国大使館、NPO法人日中交流倶楽部、株式会社テレビ山梨、株式会社文化放送、福井ケーブルテレビ株式会社、工学院大学孔子学院、北京日本倶楽部など多くの団体や企業、そしてリスナーの皆さまから多数のお祝いのメッセージを頂きました。

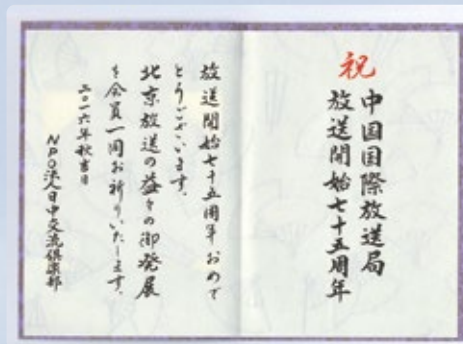
1985年に友好提携関係を結んだUTY・テレビ山梨からは「貴局とUTY・テレビ山梨との友好提携関係は1985年以来、今年で31年目を迎えました。これまでに半年間のUTYでの研修に参加した日本語部のアナウンサーは27人にのぼります」など、これまでに両局が協力して制作した番組などを振り返るメッセージが届いています。

また、工学院大学孔子学院からは、波乱万丈な中国の歴史と共に歩んできた弊局の歴史を評価し、「グローバル化の時代は『多文化共生』の時代です。異なった文化、異なった価値観を認め、尊重し、学び合うことが求められています。この面でも中国、そしてCRIが大きな役割を果たす事を期待します」という内容でお手紙を頂きました。

この他、皆様から頂いたお便りやメッセージを以下にご紹介します。
(順不同)



在中国日本国大使館



NPO法人日中交流倶楽部



株式会社文化放送



株式会社テレビ山梨



福井ケーブルテレビ株式会社



工学院大学孔子学院



北京日本倶楽部



「かけはし」や番組へのご意見・ご感想をEメール、お便り、SNSなどでお寄せ下さい!

E-Mail: riyubusns@126.com

郵便(日本): 〒152-8691

目黒郵便局 私書箱78号 宛

郵便(中国): 100040

中国国際放送局日本語部 宛

番組の感想

■番組名:ハイウェイ北京

■神奈川県横浜市 大場秀樹さん

放送で紹介された中国の土地をインターネットで検索しながら拝聴しております。ネットのおかげで昔とは違った形で放送を聞くことができます。

■番組名:美味しい中国

■神奈川県横浜市 小野澤栄さん

「猫耳朵麵」の話題が出ました。横浜の中華街で「刀削麵」は頻りに食べるのですが、「猫耳朵麵」にはまだ巡り合ったことがありません。一度食べてみたいですね〜。

■番組名:読書の時間

■三重県津市 川添充則さん

日本でも有名な皇帝が紹介されて、更に親しみを感じました。君主がなぜ賢明なのかがよく分かり良かったです。「左遷」の語源が、劉邦に関するということを知り、興味深かったです。

■番組名:キーワードチャイナ

■宮城県仙台市 秋葉浩之さん

中国語にも流行語があり、時代の変化とともに新語が出てくることを実感しています。また新語の発信地が中国大陸のみならず香港や台湾、他の中国語圏だったりするとのことで、スケールの大きさを感じます。

■番組名:ハイウェイ北京

■神奈川県横浜市 近藤真平さん

「神舟11号」の話題は、中国の宇宙開発のステップや状況がよく分かり、とても勉強になりました。特に、宇宙飛行士が宇宙で快適に過ごすために様々な工夫をしている点には大変感心いたしました。また詳しくご紹介いただければと思います。

■番組名:キーワードチャイナ

■兵庫県明石市 矢倉徹也さん

流行語について興味深く拝聴いたしました。ローマ字や数字の流行語は面白いですね。数字の流行語は意味の説明を聞いて理解すると面白かったです。楽しい役立つ番組をこれからもお願い致します。

編者後記

新年あけましておめでとうございます。

2016年は、文字通り「情報の激流」の中でせわしく幕を閉じました。その激流の中で、かつての「北京放送」は「中国国際放送」として生まれ変わりを果たし、報道、映像製作、書画チャンネル、ネット配信などのジャンルで個性を発揮し始めています。

今号では、弊社主催の「紅白歌比べ40周年特別企画『中日歌唱コンテスト』」を特集しました。今回のイベントで最も喜ぶべき点は、ラジオを通してリスナーに現場の声を届ける以外に、3つのネット配信プラットフォームを通してライブ現場の空気を約20万人の視聴者とシェアできたことです。

さて、中国では旧暦の春節からが本格的な「新年」になるため、今号が2016年の締めめの号となります。間もなく迎える新春からも、皆様の応援をいただき、より読みやすい雑誌作りに努めて行きたいと思います。(趙雲莎)



広島大学北京研究センター主催 第11回日本語作文スピーチコンテスト

～テーマは「米」～

広島大学北京研究センター主催の「第11回日本語作文スピーチコンテスト」が11月12日に首都師範大学で開催されました。予選を勝ち抜いた6名の学生が、150人あまりの聴衆を前に熱い思いを語って競い合いました。優勝したのは、父親から聞いた思い出をネイティブ並みの日本語で披露した董博文さん(大連外国語大学)でした。

同センターの佐藤暢治主任教授によりますと、今回のコンテストには中国全土の34大学から合計700人の応募があったということです。一次選考で11人まで絞り込まれ、その後、初めての試みであるネット投票が行われて、本戦に進む6人が選出されました。

今回のスピーチのテーマは「米」。選手の多くはご飯やお粥を炊いて食べることに結びつけて、家族と一緒に過ごした思い出や、食べ物大切さを訴えました。協賛企業の代表として広島から訪れた福山通運株式会社の小原伸専務は「日本語の上手さにびっくりした。作文の中身を聞くと、米の大切さを思う気持ちは中国も日本も同じなんだと痛感し、涙ながらに聞いていた」と高く評価しました。

また、広島から応援に駆けつけた実巖寺の山本義博住職は「稲は中国経由で日本に伝わったもの。中日交流の原点を思い知らされた、良いスピーチだった。中国と日本は世界の平和に向け、もっと協力してほしい。このようなメッセージをぜひ、このスピーチコンテストから発信してほしい」と、コンテストの今後の実施に期待を寄せました。



優勝の董博文選手
(スピーチテーマ:お米の絆)



広島大学北京研究センターは、広島大学が2002年に初の海外教育研究拠点として、中国北京の首都師範大学に設置しました。2006年から、中国の日本語専攻の大学生を対象に毎年コンテストを実施。優秀作文は白帝社から「日中友好の架け橋」のタイトルで出版され、中国の若者の、ありのままの考えを知ることができる書籍として知られています。

なお、次回と同コンテストは2017年11月18日(土)に開催予定で、テーマは「ラジオ、テレビ、インターネット」です。

(王小燕、王洋)

【新年番組予告】

～CRIからのハッピーニューイヤー2017～ 5日間連続放送!

中国国際放送局(CRI)では2016年12月31日から2017年1月4日まで、スペシャル番組「CRIからのハッピーニューイヤー～2017～」をお届けします。恒例の「紅白歌比べ」はもちろん、2016年の中国を振り返るキーワードや市民の声、中国各地の新年の祝い方まで…。華やかに、賑やかにお届けします!新しい年の始めの楽しい一時、ぜひCRIと共に過ごしてください。

新年番組は2017年の春節(1月27日～1月31日)再放送予定。お聴き逃しなく!



■行く年来る年

2016年12月31日19:20(春節再放送:1月27日19:00ほか)

2016年最後のレギュラー番組。世相を映し出すキーワードを通してこれまでの1年を振り返り、まもなく始まる2017年を展望します。北京市民たちの喜怒哀楽の声と共にお届けします。(担当:王小燕、齊鵬)



■第40回CRI紅白歌比べ

2017年1月1日19:00(春節再放送:1月28日19:00ほか)

CRIのお正月番組と言えば、「紅白歌比べ」!伝統あるこの番組が今年40周年を迎えます。節目の年の今回は、出場者を一般募集し、中国人は日本語で、日本人は中国語で歌い、友好交流をはかります。また、懐かしい日本語部のOB、OGのインタビューも交え、40年の歩みを振り返りつつお届け。どうぞお楽しみに!(担当:関亦冰、高橋恵子)



■新年の旅

2017年1月1日20:20(春節再放送:1月28日20:00ほか)

古今東西、新年を祝う気持ちは同じでも、祝い方はそれぞれ。例えば、中国でお正月の食べ物と言えば「餃子」のイメージがありますが、北方地域の人は食べても、長江流域では食べません。「中国の旅」新年番組は、中国各地出身の日本語部スタッフ座談会をお届け。地域ごとのお正月の過ごし方はどんな風に違うのでしょうか?乞うご期待!(担当:任春生、高橋恵子)



■年女のキーワードおしゃべりスタジオ

2017年1月1日21:20(春節再放送:1月28日21:00ほか)

13億人の生活革命が行われる中国。その2016年の世相を表すキーワードにクローズアップ。語るのは、2017年の酉年にちなんだCRIの年女たち。新しい一年への願いを込めて、生活にまつわるあれこれをたっぷり語り尽くします!(担当:周莉、劉叡琳 ゲスト:謝東、孟群、殷絮)



■異文化交流が生む絆～中日交流カフェ・新春スペシャル～

2017年1月2日21:20(春節再放送:1月29日20:00)

2017年は中日国交正常化45周年の節目の年。中日関係、「山あり谷あり」ではありますが、平和と友好を願う両国の人々のたゆまぬ努力のお陰で、交流が途絶えることはありませんでした。文化が違えば考え方も違うのは当然。だからこそ、対話が必要です。今回は、「『ことば』異文化の扉を開ける鍵」と題した、文化部元副部長(日本の副大臣に相当)劉徳有氏と静岡県川の川勝平太知事の対談をお届けします。恒例のリスナー「2016年と2017年」もあわせて、どうぞお楽しみに!(担当者:高橋恵子、劉叡、王洋)

番組はWebサイトでもお聴きいただけます。

<http://japanese.cri.cn/781/2016/12/23/Zt241s256595.htm>



東方新報

徹底して“オリジナル”を追求します。

《東方新報》は1995年に創刊。日本全国に発行され日本で最も影響力のある華文メディア社です。また当社新聞は、中国南方航空の日-中便すべての機内紙として搭載している日本で唯一の会社です。オリジナルティある報道を堅持し、最大の真実、オーソリティを追求し続ける、最も新鮮な日本および華人社会のニュースを提供しております。

《東方新報》WeChat



《東方新報》WEB



上のQRコードをスキャンしてください。



定期購読：半年 6,000円
定期購読：一年 9,800円
定期購読：二年 19,600円

お申込みはこちら ☎ 03-3981-2701 (平日 AM9:00~PM6:00)

■発行 日本華伝媒株式会社
■編集部 03-3981-2705
■投稿メール tougao_xinbao@163.com
■WEB <http://www.livejapan.cn>

■広告総代理 株式会社 東方インターナショナル
■電話 03-3981-2701 FAX 03-3981-2706
■住所 〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-23-2-6F
■振込口座 りそな銀行池袋支店(普) 5116180 名義:トウホウシンポウ



■ SNSで観るCRI (各SNSプラットフォーム)



@CRI日语频道



@CRIJpn



CRI日语频道



CRI日本語



CRI日语部



YouTubeアカウント
CRI日本語



CRIの人気番組をPodcastでも配信中!

iTunesや対応アプリから「CRI」で検索。

配信番組: CRIニュース、ハイウェイ北京、中国語講座 ほか